

# 「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

テーマ
地元の魅力を伝えるビデオ映像を作ろう
目標
学習レベル：2 1. 自分たちの地元の魅力を、韓国の交流先の学生に映像と韓国語で伝えることができる。 2. 自分たちにとって常識であり説明が必要でないことも、相手にどう映るかを考えることができる。 3. 自分たちでビデオ撮影と編集をして、効果的な映像に仕上げることができる。
コミュニケーション能力指標
【地域社会と世界】 1-e. 自分の住んでいる町や都市の、有名な場所や食べ物などを、言うことができる。 2-a. 自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料を作ることができる。 2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを、話すことができる。 【交通と旅行】 1-b. 観光名所やおすすめのお土産を紹介できる。 【食】 3-c. 日本の代表的な料理や自分の住んでいる地域の料理について、口頭で紹介できる。
学習シナリオ
〈場面状況〉 大学の国際文化学部 1、2 年生で韓国語の授業を 4～6 単位履修し、初歩的な自己表現、基本的な文法などを習得した 6 人の 3、4 学生を対象とする週 1 回 1 学期の授業。前半では、1、2 年生の時に学んだ、ごく一般的な自己紹介より詳しく、自分の人となりを分かってもらえるような自己紹介をビデオで作成し、韓国・釜山外国語大学の学生に送り、カカオトークでグループを作成した。相手からも同様の自己紹介ビデオが送られ、お互いにカカオトーク上で何度かのやりとりを行った。本プロジェクトは学期の後半で自分たちの地元について釜山の学生に紹介するビデオ映像を作ることにしたものである。
〈活動の流れ〉 ①地元・福岡はどのような都市か、何が魅力かを考え、列挙する。 ②6 人でビデオ映像の構成、流れを考える。 ③アイテムを分担して説明文（シナリオ）を考える。 ④各自、説明文を韓国語に翻訳する。翻訳の際は、まず自分がこれまでに学習した語彙や文法を駆使し、辞書を使って文を作成するが、どうしても分からない箇所はスマホの翻訳機を使ってよいとする。 ⑤学生それぞれが作った日本語の文と韓国語の文を教師にデータ送信させ、1つのファイルにして全員に配り、教員が翻訳上の注意点や独特な語彙・表現の訳語を説明し、共有する。 ⑥各自、読む練習をするとともに、撮影の際、どのような工夫をすればよいか（場所を変える、パワーポイントや画像を使う、効果音を流すなど）を考え、撮影当日までに準備する。 ⑦撮影を実施し、編集、BGM 挿入、字幕挿入を行う。 ⑧出来上がった映像をライン上にアップし、感想を韓国語で述べてもらう。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

**総括的評価**

- ・ 自分や福岡のことを韓国人に分かってもらえるよう、対象を選び、説明できたか。
- ・ 説明や写真の提示は適切だったか。
- ・ 説明のパフォーマンスは適切だったか。
- ・ グループで協力して作業を進められたか。
- ・ 交流相手とつながることができたか。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

ワークシート 3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の魅力を表現するための語彙や表現がわかる。</li> <li>・韓国の大学生の韓国語での感想が理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって身近な地元の何が魅力か、何がアピールに値する事柄かを考えられる。</li> <li>・相手にとって自分たちの身近なものがどう映るか、どう説明すればよいかを考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内での意見交換を通じて、互いの地元認識を比較し合い、自己を再認識できる。</li> </ul>
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元・福岡がどのような都市か（規模、釜山との距離、象徴など）を説明できる。</li> <li>・地元・福岡の特徴的な事象（繁華街、観光地、食など）を説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちを客観視した上で、自分たちの伝えたいことが韓国の学生に伝わるように説明できる。</li> <li>・説明に効果的な画像や BGM を選択できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して、シナリオ作成から映像完成まで取り組むことができる。</li> </ul>
つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国の大学生とカカオトークでつながり、映像を見てもらい、感想をもらったら、一言返せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本独特の文化について、韓国の大学生に、日本の大学生の感覚でリアルに伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担と協力を通じて、一人ではできない活動のダイナミズムを知ることができる。</li> </ul>
三	連携 1：身近で愛着のある物事を客観的に見つめる。		
連	連携 2：既習の韓国語知識、辞書、インターネットなどを用いて自己表現する。		
携	連携 3：韓国の大学生とカカオトークでつながり、お互いの情報を交換する。		

## 「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

### 総合的評価のためのポイント

- ・韓国の大学生に、福岡がどのようなところなのか、どんな魅力があるのかが伝わるようにビデオ映像を作成する。つまり、自分達だけに分かるような独りよがりの映像にならないよう注意すること。
- ・グループで作業するため、役割を分担し、お互いに協力すること。

### 総合的評価のための活動の指示文

韓国の大学で非専攻語として日本語を学んでいる大学生に、福岡がどのようなところなのか、どんな魅力があるのかを分かってもらえるようなビデオ映像を作ってもらいます。

- ・そのためには、自分たちにとって説明は要らないと思っても、外国の人の立場からは分からないことがあります。よく考えて、対象の選定と説明文を考えてください。
- ・韓国語文の作成に当たっては、既習の語彙や文法を最大限駆使し、辞書のみを使って取り組んでほしいですが、内容の特殊性から、分からない語彙や表現も多いと思います。その場合はスマートフォンの翻訳機能を使っても結構です。ただし、翻訳機の訳文がそのまま使えることは少ないので、後で教師から注意点を指摘しますので、参考にしてください。
- ・映像で伝えるので、分かりやすく説明するための補助映像、BGM、字幕などもよく考えて最終的な作品に仕上げてください。
- ・最初の、紹介すべき場所や事柄の選定とシナリオ作成、撮影、編集等は全員の協力により行うので、相互に連絡を取り合い、できるだけ欠席しないようにしてください。
- ・完成した映像をカカオトークにアップした後、釜山外大の学生からコメントをもらったら、必ず何か一言返してください。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

ルーブリック

	目標以上達成（4点）	目標達成（3点）	あと1歩（2点）	もっと努力が必要（1点）
シナリオ作成と紹介内容の選定	韓国人に福岡の魅力を理解してもらえるよう、相手の立場を考えてシナリオ作成と紹介内容の選定できた。	福岡の魅力を理解してもらえるようシナリオ作成と紹介内容の選定できた。	福岡の魅力を理解してもらえるようシナリオ作成と紹介内容を選定しようとしたが、うまくできたかどうか分からない。	福岡の魅力を理解してもらえるようシナリオ作成と紹介内容を行うということの意義がよく分からなかった。
韓国語による説明文	既習の語彙・文法を駆使し、分からないところは辞書や翻訳機に頼ったものの、教師が指示した注意点などに留意し、新たな知識を活用して説明文を仕上げた。	既習の語彙・文法をできるだけ使い、分からないところは辞書や翻訳機に頼って、自分なりに説明文を仕上げた。	既習の語彙・文法が十分ではないため、半分ぐらい辞書や翻訳機に頼って説明文を仕上げた。	既習の語彙・文法が不足しているため、大部分を翻訳機に頼って説明文を仕上げた。
映像のパフォーマンス	台本を暗記し、スムーズに説明できた。	台本をときどき見ながらではあるが、スムーズに説明できた。	台本をずっと見ていたが、まあまあスムーズに説明できた。	台本をずっと見ていたが、ときどき言葉に詰まったり、言い間違えたりした。
発音と声の大きさ	正しい発音で、大きな声で、はきはきと、相手に良く伝わる説明だった。	正しい発音で、大きな声で、はきはきと説明できた。	相手になんとか伝わる程度の発音で、はきはきと説明できた。	声が小さく、相手に伝わりやすいとは言い難い説明だった。
グループ活動への貢献度	自分の役割を果たし、他のメンバーと協力することはもちろん、よりよい活動となるよう、アイディアを出すなど工夫することができた。	自分の役割はきちんとこなし、他のメンバーと協力できた。	授業にときどき欠席したが、最低限、自分に与えられた役割だけは果たせた。	授業にしばしば欠席し、自分の役割を果たせず、グループ活動に迷惑をかけた。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題

作成者：長谷川由起子／九州産業大学准教授（韓国語）

目標分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	テーマ
韓国人に伝えたい福岡の魅力を考える。インターネットを参考にしてもよい。	身近なものを客観視し、相手に分かりやすい順序・内容を考える。	映像と韓国語で伝えるべき内容を作りあげる。	自分たちの地域の魅力を、韓国の交流先の学生に映像と韓国語で伝えるために、自分たちにとって常識であることも、相手にどう映るかを考え、自分たちでビデオ撮影と編集をして、効果的な映像に仕上げる。	地域の魅力を韓国語で伝えるビデオ映像を作ろう。
紹介内容を選定し、配列する。				
担当箇所を決め、説明内容を考える。インターネットを参考にし、正しい情報となるよう努める。				
【形成的評価】日本語の説明文を提出し、フィードバックを受ける。				
既習の語彙・文法を駆使し、辞書を使って説明文を韓国語に訳す。難しい場合はスマホを使ってもよい。	既存の知識、補助手段、教師の示唆を参考に内容を完成させる。			
全員の説明文を統合したものを配布し、教師が注意点を説明するので、これを訳文の完成に活かす。				
【形成的評価】韓国語の説明文を提出し、フィードバックを受ける。				
説明文を読む練習をする。必要に応じて教師の録音音声を提供する。	韓国語によるプレゼンテーションの準備を行う。	韓国語で伝えたいことが相手によりよく伝わるよう工夫する。		
説明文を暗記し、すらすら読めるようになるべく努める。				
説明の補助となる画像、BGMを準備する。				
できるだけ台本を見ないようにして撮影を行う。				
撮影された画像を編集する。BGMと字幕も添える。				
【形成的評価】できあがった映像を全員で評価する。ここまでの作業全体を含めルーブリックで評価。				
映像を交流相手に送り、カカオトークで感想を述べてもらい、その内容を理解する。	相手からの反応を理解し、自分なりに応じる。	ビデオ映像を通じて相手とつながる。		
相手からの感想に対し、少なくとも一言返事を返す。				
【総括的評価】				

## 学習者の特性などに配慮した点など

・昨年度、同じクラスで同様の試みを行い、比較的うまくいったという手ごたえを得て、本年度はより綿密にプロジェクトを行ってみようと本クラスで実施したが、見事に当てが外れた。というのは、昨年度から今年度にかけてカリキュラムの移行期にあったため、予想していた学習者層と大きく異なっていた。受講生は3年生男子3人と女子1人、4年生女子2人の6人であったが、授業開始当初から、体育会系の3年男子は部活動でたびたび欠席し、4年女子の1人は就職活動やインターンのため欠席し、3年女子は理由不明によりたびたび欠席と、授業のたびにメンバーが変わった。さらに、3年生3人は1年生でとるべき韓国語Ⅰ・Ⅱを2年かけてかろうじて修得し、本科目は卒業単位として必要であるため受講していた一方、4年生のうち1名と3年生1名は語学力も高く、単位とは関係なしに学びたいという動機を持ち、残り1名はメンタルが不安定というメンバーであった。そのため、学期初めにはこのクラスで実践を行うことを諦めかけていたが、各受講生共に、授業の目標である、自分たちを表現し、韓国の大学生と交流するという趣旨には積極的な興味を示したため、授業開始から1ヶ月ほど経ったところで、計画を変更しながらも、このクラスで実践を行うことにした。

・語学力の差があるのは歴然としているため、それぞれの役割が異なるのは致し方なく、それを不公平に感じたり、不満に思ったりしないように授業を進め、時にはフォローするのに苦労した。

・メンタルが不安定な女子学生は、皆と協力するのはしんどい、というようなことを言っていたが、社会に出るにはこのような活動は重要だと諭し、他のメンバーにも彼女が入りやすい雰囲気を作ってほしいと伝えることで、なんとか最後までやりとげてくれた。

・韓国の交流相手は11月初めに釜山外国語大学の日本語初級クラスとすることを決めたが、韓国の大学の学期は12月上旬に終了するため、本格的な交流を授業で行うのは困難だと判断し、今後のことも考えて、カカオトークでつながっておくことにした。

・昨年度のクラスの学生はスマホによる映像処理などの技術が共有され、学生の自力で工夫された作品が仕上がったが、今年度の学生は横のつながりが少ないうえ IT に弱く、指導を試みたものの使いこなすには至らなかった。そのため、教師所有のVTRカメラで撮影し、編集も教師所有の編集ソフトの使い方を教えるなど、かなりの介入を行った。映像制作は学生自らの活動で成し遂げられたとは言い難い状況であるが、今年度の状況からは致し方ないと考える。

・特に撮影から映像編集に至る過程で、欠席は許されないと説明していたにもかかわらず欠席した学生がいた。そこで切り捨ててしまうこともできたが、6人の作品が完成しないことは学生らにとっても残念なことであるため、事後、個別に追加撮影を許し、作品に組み入れたところ、全員が非常に喜び、感謝を伝えてきた。これでよかったのか悩むところである。